

# 北海道浮魚ニュース

平成 11 ( 1999 ) 年度 13 号 ( 通巻 No.59 )

1999 年 9 月 2 日

北海道立中央水産試験場	Tel : 0135-23-8707	Fax : 0135-23-8709
釧路水産試験場	Tel : 0154-23-6221	Fax : 0154-23-6225
函館水産試験場	Tel : 0138-57-5998	Fax : 0138-57-5991
稚内水産試験場	Tel : 0162-32-7177	Fax : 0162-32-7171
網走水産試験場	Tel : 0152-43-4591	Fax : 0152-43-4593

## 道南太平洋スルメイカ南下期調査結果

金星丸 ( 函館水試調査船 ) により行われたスルメイカ調査結果をお知らせします。

調査期間 : 1999 年 8 月 23 日 ~ 8 月 31 日

調査海域 : 太平洋 ( 津軽海峡 ~ 襟裳岬以西 )

- 1 . 調査海域の表面水温は 22 ~ 25 台と前年 ( 20 ~ 22 台 ) に比べ 2 ~ 3 高く、特に恵山沖の St.1 では 3 以上も高い状態でした。また、50m 層の水温も調査海域のほとんどで前年に比べ 1 ~ 4 高い状態でしたが、St.1 では逆に 1 以上低く、表面との温度差はかなり大きくなっていました ( 図 1,2 ) .
- 2 . CPUE<sup>\*1</sup> は、0.1 ~ 8.7 尾 ( 前年 0.4 ~ 51.9 尾 ) の範囲にあり、日高沖の St.15 では前年に比べ高い値でしたが、その他の調査海域では前年よりも低い値でした ( 図 1,2 ) . また、調査点全体での平均 CPUE は 3.2 尾であり、1994 ( H6 ) 年並 ( 3.8 尾 ) の低い値でした ( 表 ) .
- 3 . 調査点全体でのスルメイカ外套長 ( 胴長 ) の範囲は前年と同様 14 ~ 28cm でした。また、外套長モード<sup>\*2</sup> の範囲は 20 ~ 22cm であり、前年より 1 ~ 2cm ほど大型でした ( 表 ) .

( 文責 : 函館水試資源管理部 )

直通電話 0138-57-5997

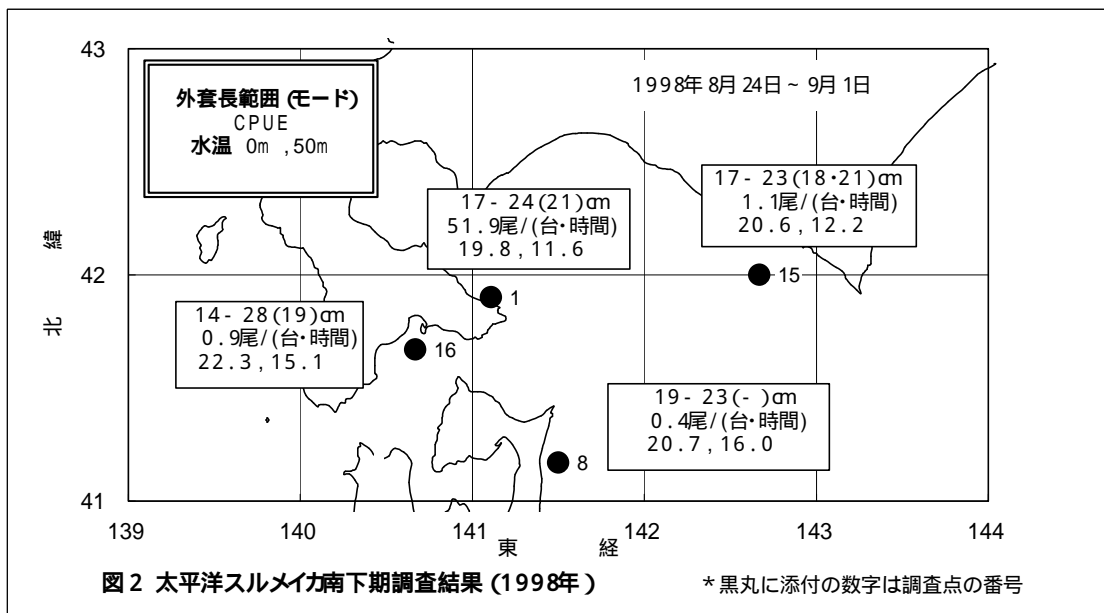
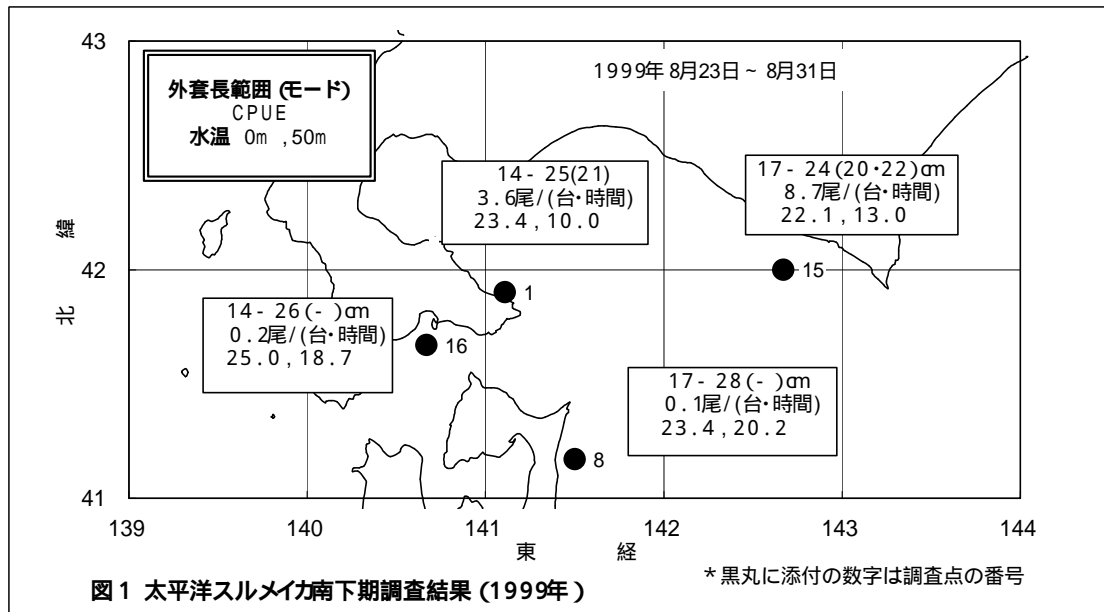


表 道南太平洋スルメイカ南下期調査時のCPUEと外套長の経年変化

	1994 (H6)	1995 (H7)	1996 (H8)	1997 (H9)	1998 (H10)	1999 (H11)
4調査点の 平均CPUE (尾/台・時間)*1	3.8	5.1	13.9	17.3	13.6	3.2
外套長の範囲 (cm)	16 - 29	11 - 29	11 - 31	12 - 27	14 - 28	14 - 28
外套長モードの範囲 (cm)*2	22 - 27	22 - 24	21 - 23	21 - 23	18 - 21	20 - 22
海面水温 ( )	22.0-25.4	21.4-23.3	19.3-21.4	17.7-23.4	19.8-22.3	22.1-25.0
50m層水温 ( )	9.8-18.8	11.6-21.2	9.6-16.3	9.7-18.7	11.6-16.0	10.0-20.2

\*1 CPUE: 2連式自動イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数。この値が大きいかほどイカが多く分布している。  
\*2 外套長モード: 一番多く漁獲されたスルメイカの胴(外套膜)の長さ。